

東京電力(株)福島第一原子力発電所事故に関する第5回現地調査結果について

平成24年 2月14日

福島県原子力安全対策課

本年1月から2月にかけて、凍結による損傷や仮設タンクの継ぎ目部の緩み等により、放射性物質を含む水の漏えいが多数発生したことから、再発防止対策について実施状況を確認するため、県と大熊町、檜葉町[※]、富岡町[※]は、事故後5回目となる現地調査を実施しました。併せて、2月2日から上昇傾向を示している2号機原子炉底部温度（2月15日になって東京電力は当該温度計は故障していたものと判断した。）の監視状況についても確認しました。その結果は下記のとおりです。（※オブザーバーとして参加）

記

1 確認状況

- (1) 日時 平成24年2月14日（火） 午前10時30分～午後4時50分
- (2) 場所 福島第一原子力発電所
- (3) 確認者 福島県 古市生活環境部次長、小山原子力安全対策課長 他3名
大熊町 成田企画調整課主任主査 他2名
檜葉町 菅波企画課主査
富岡町 佐藤生活環境課係長

2 確認結果

- 凍結防止対策として、保温材が未取り付けであった配管フランジ部や弁体については保温材が施工されていた。加えて、安全上重要な原子注水系ポンプ類については、保温のためのハウス設置が完了していることを確認した。
- また、汚染水貯蔵タンクの漏えい防止及び海域への流出防止対策として、ボルト増し締め、土のう設置による初期対応が講じられており、今後は鋼板による堰の設置が計画されている。
 - ・ 廃液供給ポンプ廻り及び淡水化装置廻りの凍結防止策（保温材の取り付け等）
 - ・ RO濃縮水貯水タンクエリアの汚染水流出防止策（土嚢による堰の構築）
 - ・ 高台設置の原子炉注水ポンプ廻りの凍結防止策（保温材の取り付け、ハウス設置）と汚染水流出防止対策（土嚢による堰の構築）
- 高濃度汚染水の浄化に伴い発生する汚泥等、使用済保護衣等の廃棄物の保管状況を確認した。使用済保護衣類等は、発電所内の固体廃棄物貯蔵庫とJビレッジに保管されているが、保管可能な残容量が少なくなっていることから、これらの比較的汚染レベルが低い可燃性廃棄物の処理が課題となっている。

- ・ 廃スラッジ貯蔵施設（建設中）及び使用済みベッセル保管施設（運用中）
 - ・ 固体廃棄物貯蔵庫に一時保管されている使用済保護衣類等と圧縮減容処理
- 免震重要棟に設置されている集中・遠隔監視システムにおいて、2号機原子炉圧力容器底部温度の監視状況（対象箇所数、読取頻度等）を確認した。



追加で取り付けた発泡ウレタン厚さ30mmの保温材
〔水処理設備の廃液供給ポンプ廻り〕



淡水化装置（RO）を覆う保温ハウス（暖房あり）
〔水処理施設のジャバラハウス内〕



左側の水路の手前に土嚢による
堰を構築
〔RO濃縮水貯水タンクエリア〕



保温剤を取り付けした配管、土
のうによる流出防止の堰
〔原子炉注水系の高台炉注水タ
ンク〕



使用済ベッセル(サリー)の移動
〔使用済ベッセル保管施設〕



仮置きされた圧縮減容前の使用済保護衣類等

〔固体廃棄物貯蔵庫〕



圧縮減容された使用済保護衣類等（5袋分）、保管用の鋼製コンテナ（約90袋程度が入る）

〔固体廃棄物貯蔵庫〕



2号機原子炉圧力容器底部温度を1秒毎に更新表示する集中・遠隔監視システム

〔免震重要棟〕